

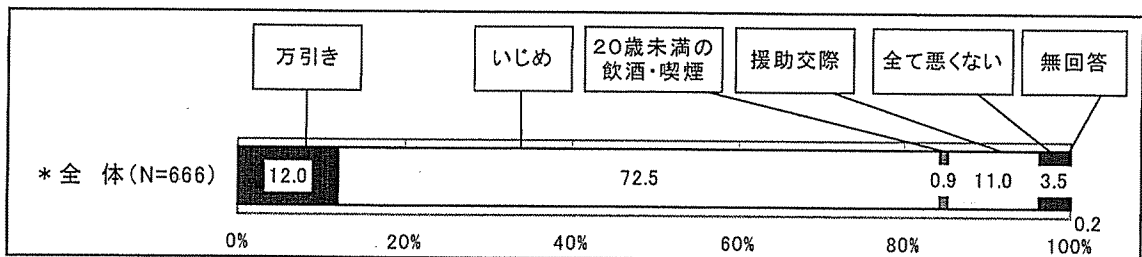
4 非行行動

(1) 犯罪・非行に対する態度

① 「いじめ」について

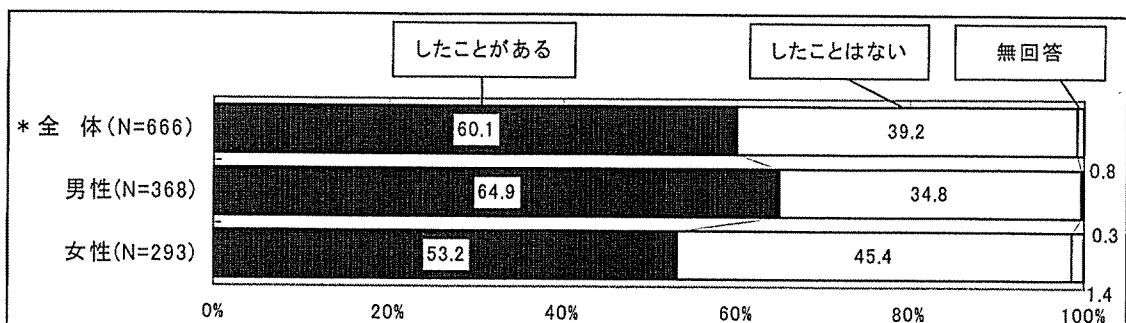
「万引き」「いじめ」「未成年飲酒・喫煙」「援助交際」の4項目のうち、最も悪いと思ったことを1つ選んでもらったところ、7割を超える回答が「いじめ」に集中した。いじめの実態やその結果が死につながるおそれなどに関して、マスコミがしばしば報道や警告をおこなっていることが、学生たちの認識にも反映しているのかもしれない。

(図表 41) 最も悪いと思う行為



では、彼(女)らは実際に「いじめ」をどの程度体験しているのだろうか。今回の調査では加害経験のみについてたずねたが、6割の者が何らかの形で「いじめ」の加害行為に加わっており、4分の1強が自ら加わらないにしても周辺に「いじめ」の事実を見ている。全く無関係だったのは1割そこそこにはすぎない。男女を比較してみると、加害経験者の比率は男性のほうが高く、黙過を含めて非関与者の比率は女性のほうが高い。ただ、女性の場合にも加害経験者が過半数である。

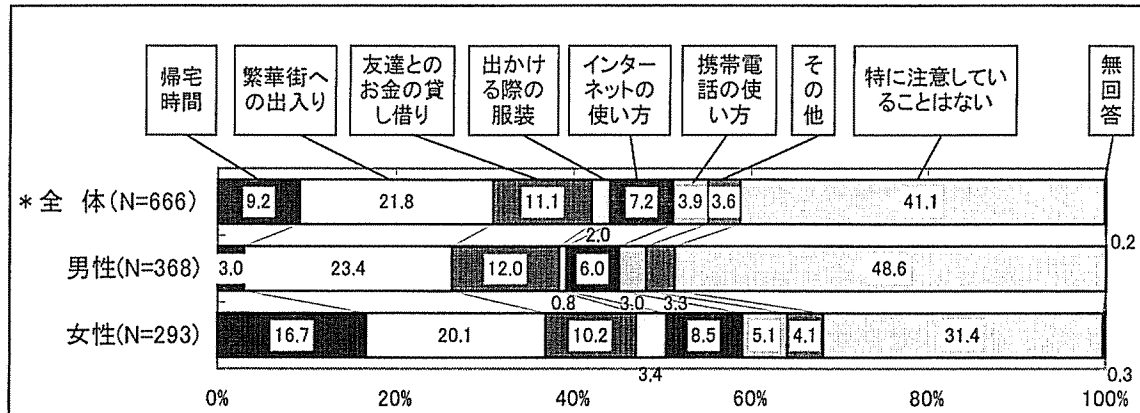
(図表 42) いじめの経験



② 防犯対策

犯罪の被害にあわないために注意している事柄についてたずねたところ、4割の者が「特に注意していることはない」と答えている。男性では5割に近く、女性でも3割程度が無防備である。

(図表 43) 犯罪の被害を被らない為の留意点



インターネットや携帯電話による詐欺や迷惑犯罪などが最近問題になってきているが、今回の調査の対象となった大学生の間では、特別の留意を払っている者はまだ少ない。

(2) 非行的行動経験

非行あるいは犯罪に近いと考えられる行動を23項目列記し、調査対象者がこれまでにコミットしたことのあるものをチェックしてもらった。結果はチェックされた頻度の多かった項目順に図表42のとおりである。

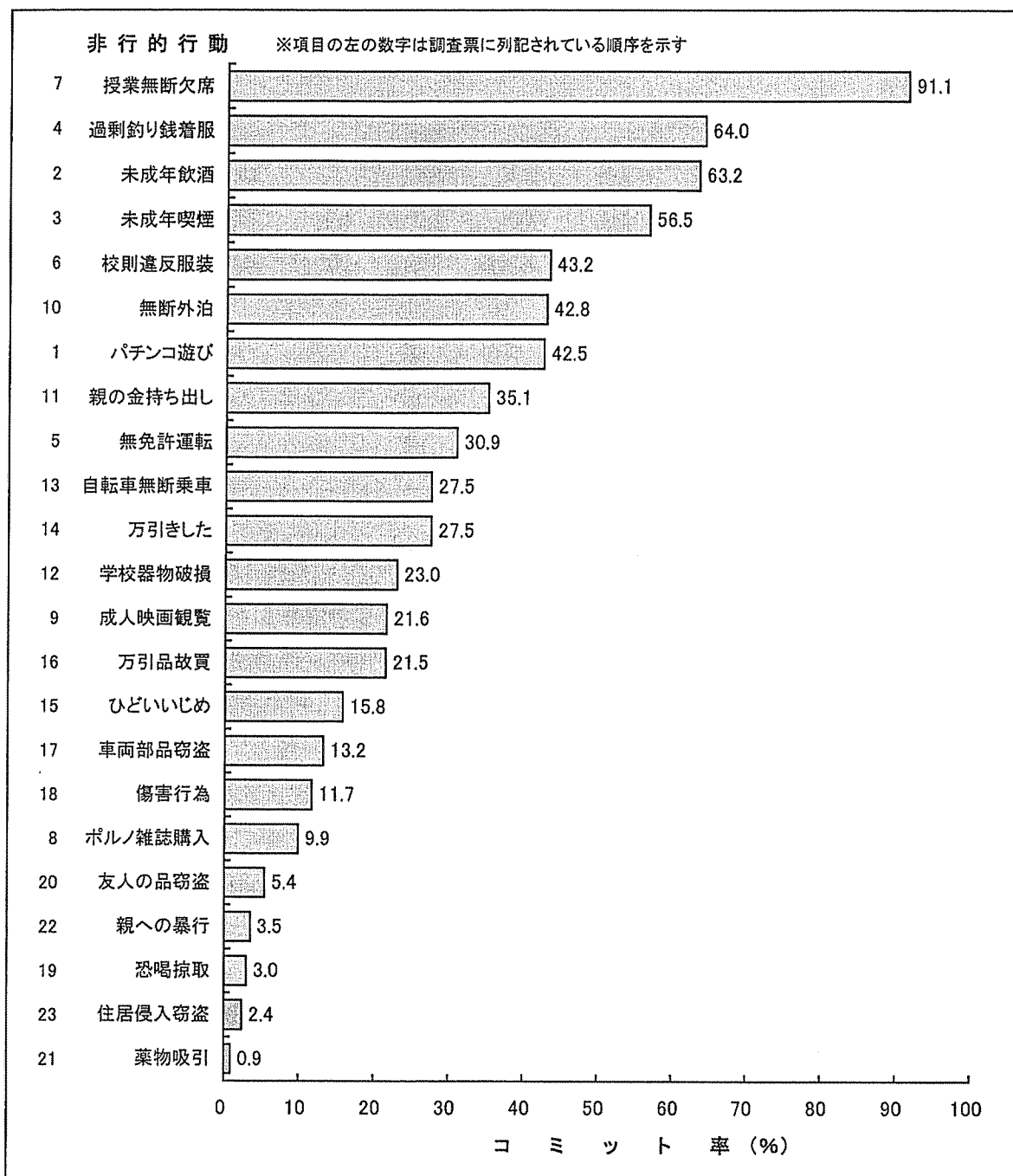
3割を超える回答者がチェックをした項目をみると、授業をさぼったり、校則違反の服装や髪型をしたり、無断外泊をするなど、大人の規制に対する「反抗的な行為」と、未成年飲酒・喫煙、パチンコ、無免許運転などの「背伸び的な行為」が主な内容である。これらの行為は、子供から大人への成長期に伴う一種の通過儀礼的なものとも考えられる。

次に2割台の項目は、万引き、道においてある自転車の無断乗車、学校の器物損壊、万引き商品の故買など、「出来ごころや一時的な衝動にかられた非行」が目立つ。これらの行為は、犯罪性自体は軽微といえるが、他者に損害を与える行為であり、成長期に固有のものともいえない。

1割台の項目にはひどいいじめ、駐車中の車の部品窃取、傷害など、犯罪につながりかねない「前犯罪的非行」が含まれる。そしてチェック率1割未満の項目は、窃盗、住居侵入、恐喝、薬物吸引など、非行というよりはむしろ「犯罪行為」といえるような行動がならんでいる。

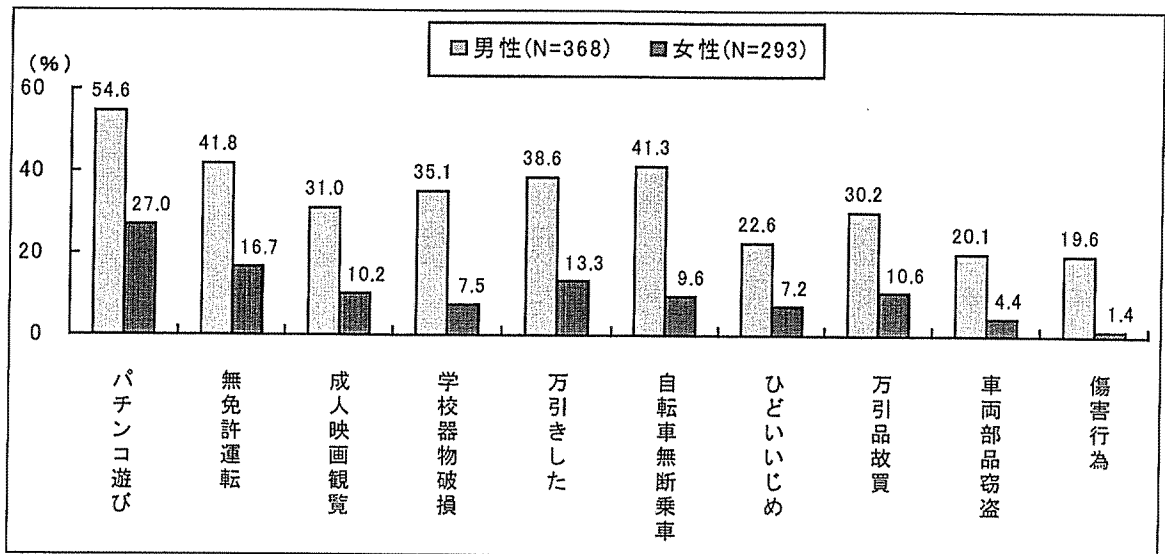
成人映画を観た経験とポルノ雑誌を購入した経験の2つは、性的な内容を持っている点で、類似のものとも考えられるが、コミットした者の割合は大きく異なっている。それぞれの行為が発生しやすい環境的条件の差によるものかも知れない。

(図表 44) 犯罪行動とコミット率



以上の諸行為は、回答者の属性によってコミット率に差のみられるものがある。特に顕著なのは性差で、ほとんどすべての項目にわたって男性の比率のほうが高い。全体で10%以上のコミット率をもつ17項目のうち、男性の比率が女性のそれを2倍以上上まわる項目は10項目に達する。

(図表 45) 性差によるコミット率



年齢によってコミット率がリニアに変化している行為は「未成年喫煙」「過剰な釣り銭着服」「無免許運転」「無断外泊」「学校の器物破損」「万引き品の故買」の6項目であるが、このうち「未成年喫煙」「過剰な釣り銭着服」「無断外泊」は年長者ほどコミット率が高くなり、他の3項目は反対に若年者ほど高くなっている。ただその理由の説明は困難である。

属性のなかでもうひとつ、居住態様（一人暮らしか家族と同居しているか）によってコミット率を見てみると、殆どの行為に関して一人暮らしの者のほうが高い比率を示している。家族と同居という状況は、それなりに非行に対する規制的条件になるのであろうか。そのうち両者の間に10%以上の差のある行為は、「未成年飲酒」「未成年喫煙」「万引き」及び「自転車無断乗車」の4つであった。

(図表 46) 居住態様によるコミット率

